

教科(科目)	国語 (現代の国語)	単位数	2単位	年次(系列)	1年次 (必履修)
使用教科書	大修館書店 『現代の国語』				
副教材等	『新訂総合国語便覧』(第一学習社) 『常用漢字ダブルクリア 五訂版』(尚文出版) 『常用漢字ダブルクリア 五訂版 別冊徹底トレーニングノート』(尚文出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

- 進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、
- ①基本的な言語事項の習得を重視し、特に漢字や語彙力の育成を図ります。
 - ②文章の構成や表現の工夫を理解し、的確な文章読解ができることをめざします。
 - ③構成や展開、表現を工夫して他者にわかりやすい表現ができることをめざします。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字や語彙に対する理解を深め、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	領域ごとの授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	明日をひらく	8「C 読むこと」	野矢茂樹「考える技術」	「考える」ということについて、筆者が定義しようとしていることを読み取る。	10	a 定期考査(知識の分析) b ワークシート(記述の点検) c 発表の様子(行動の確認)
		2「B 書くこと」	伝える・伝え合う	相手や目的に応じた語句や文体の使い方を身につける。		
5	的確に捉える	2「A 話すこと・聞くこと」	伝わるように話す	聞き手が理解しやすい説明の仕方を考え、過不足なく伝える。	4	
		2「B 書くこと」	わかりやすく書く	相手に正確に伝わるようにわかりやすく書く。		
6	要点をつかむ	8「C 読むこと」	山崎正和「水の東西」	東洋と西洋の対比から筆者の考える日本の文化の特徴を読み取る。	8	
7	意見を示す	2「A 話すこと・聞くこと」	発想を広げる	テーマについて意見を出し合い、意見交換をしながら考えをまとめる。	2	
8	魅力的に伝える	2「B 書くこと」	魅力的な紹介文を書く	伝えたいことや伝えたい理由をはっきりさせる。	2	
9	論理を捉える	8「C 読むこと」	内山節「自然と人間の関係をとおして考える」	主張と根拠・理由の関係をとらえながら筆者の考えを読み取る。	18	
		10「C 読むこと」	福岡伸一「動的平衡としての英物多様性」	「動的平衡」の意味と人間の活動、「生物多様性」の面から環境問題の原因を考える。		
10	資料を駆使する	2「B 書くこと」	統計資料をもとに意見を書く	統計資料から情報を読み取り、自分の意見をまとめる。	2	
11	情報を比較する	8「C 読むこと」	高階秀爾『「美しさ」の発見について』	文中の「美しさ」に関する情報を比較しながら、筆者が考えを深める過程を読み取る。	8	
12	他者と交流する	2「A 話すこと・聞くこと」	目的に沿った質問をする	ペアワークでお互いに相手について知りたいことをインタビューする。	2	
	他者を動かす	2「B 書くこと」	説得力のある資料を作る	効果的な表現など工夫を凝らし、学校紹介をするための動画を作成する企画書を作る。	4	
1		2「A 話すこと・聞くこと」	資料を用いて発表する	聞き手に伝わる表現や話し方を工夫し、発表する。		
2	主張を吟味する	8「C 読むこと」	國分功一郎「贅沢を取り戻す」	筆者の主張を読み取り、現代社会に必要な思考や行動を考える。	10	
		2「B 書くこと」	文章を読み取って主張を書く	課題文を読み、筆者の主張を踏まえて自分の考えを組み立てる。		

計70時間(50分授業)

領域ごとの授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 8時間	B「書くこと」 12時間	C「読むこと」 50時間
-------------	---------------------	-----------------	-----------------

7 課題・提出物等

- 定期的な漢字と語彙の小テストを行います。
- 単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出を求めます。
- 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「現代の国語」では、実生活や実社会における言語による諸活動に必要な知識や技能を身につけることをめざします。基礎・基本を大切にしながら、文章の読解のほか表現活動も取り入れながら応用力を高めていきます。

教科(科目)	国語 (言語文化)	単位数	2 単位	学年(コース)	1 年次 (必修)
使用教科書	大修館書店『言語文化』				
副教材等	『新訂総合国語便覧』(第一学習社)、『書いて覚える 古典文法 用言活用シート 増補版』(啓隆社)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、</p> <p>①基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指します。文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指します。</p> <p>②更にそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。</p> <p>③現代の文学的文章を味わい、古典の基礎知識を学び、我が国の言語文化の特性の理解を目指します。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるようとするともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。 ・基本的な言語事項と文法事項の習得を重視し、古文や漢文の読解力を身に付けている。 	<p>「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p>	<p>言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</p>

5 評価規準と評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。 	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。 	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。
<p>内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。</p>			

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5	古文に親しむ	8 C「読むこと」	宇治拾遺物語「田舎の児、桜の散るを見て泣くこと」	・古文の仮名遣いや特有の表現を、ペーパーテストを行いつつ習熟する。	8	a ペーパーテスト b ワークシート c 授業態度
	定期テスト	1B「書くこと」			1	
6	漢文に親しむ	8 C「読むこと」	「私たちと漢文」「論語」「孟子」	・漢文の訓読のための基礎知識を習熟する。ペーパーテストを行う。	8	
	定期テスト	1B「書くこと」			1	
7 8	古文に親しむ	8 C「読むこと」	宇治拾遺物語「絵仏師良秀」	・古文の動詞の活用について、ペーパーテストを行いつつ習熟する。	8	
	現代に生きる言葉	6 C「読むこと」	戦国策「蛇足」	・漢文の訓読や特有の言い回しに慣れる。ペーパーテストを行いつつ学習する。	6	
9	定期テスト	1B「書くこと」			1	
10	言葉の紡ぐ世界	11 C「読むこと」	芥川龍之介「羅生門」	・表現の工夫について理解し、語彙を増やすよう漢字テストを行い習熟する。	11	
11	現代に生きる言葉	4 C「読むこと」	十八史略「完璧」	・漢文特有の言い回しに慣れる。ペーパーテストを行いつつ学習する。	4	
	定期テスト	1B「書くこと」			1	
12	旅と人生	6 C「読むこと」	土佐日記「門出」	・古文の形容詞・形容動詞を、ペーパーテストを行いつつ習熟する。	6	
	現代に生きる言葉	5 C「読むこと」	十八史略「鶏鳴狗盗」	・漢文特有の言い回しに慣れる。ペーパーテストを行いつつ学習する。	5	
1	表現の多様性	9 C「読むこと」	夏目漱石「夢十夜」	・語彙を増やしつつ、漢字テストを行い習熟する。	9	
2	定期テスト	1 B「書くこと」			1	

計 70時間 (50分授業)

領域ごとの 授業時数合計	B「書くこと」 5 時間	C「読むこと」 ・古典 45 時間 ・近代以降の文章 20 時間
-----------------	-----------------	--

7 課題・提出物等

- ・各月に古典基礎事項テストがあります。テスト範囲の目安は、月ごとに副教材の1単元です。
- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「言語文化」は、脈々と受け継がれ、我々の中に息づいている国語の文化を理解育成する科目です。実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、外国の文化との関係を考えながら、深く共感したり豊かな想像力を伸ばしたり言葉が持つ価値への認識を深めたりすることを目指します。ここで学ぶ内容は、生涯にわたる基礎となります。基礎・基本を大切にするとともに、実際に書き、読む学習活動を通して、応用力を高めていきます。楽しみながら力を伸ばしていきましょう。

教科(科目)	地理歴史 (歴史総合)	単位数	2単位	年次(系列)	1年次 (必修)
使用教科書	実教出版『歴史総合 新訂版 むすびつく世界と日本』				
副教材等	実教出版『歴史総合 新訂版 演習ノート』 浜島書店『新詳 歴史総合』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

- 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したりする力を養う。
- 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して我が国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、

- ①基本的な歴史的事実を、その原因・背景と結果・影響に着目しながら理解できるようになることを目指します。
- ②現代社会における課題を歴史的事実との連なりの中で理解し、民主的・平和的に課題を解決していくために自分の考えや意見がもてるようになることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにしている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して我が国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けてようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の分析 ・授業への取り組み ・授業プリントや課題の提出状況などから評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の分析 ・授業への取り組み ・授業プリントや課題の提出状況などから評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み ・授業プリントや課題の提出状況などから評価します。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	授業 時数	評価方法
4	歴史の扉 第1編近代化と私たち 第1章近代化への胎動	教科書 副教材	歴史と私たち、歴史の特質と資料 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動、幕府の政治改革と欧米諸国の日本接近、アジアの繁栄とヨーロッパ社会の変化	1 5	第1 考査 授業への取り組み 授業プリント等の提出状況
5	第2章欧米の市民革命と「西洋の衝撃」		イギリス産業革命とアメリカ独立戦争、フランス革命とウィーン体制、アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立、オスマン帝国の衰退とロシア、アヘン戦争の衝撃と日本の開国、江戸幕府の滅亡	10	第2 考査 授業への取り組み 授業プリント等の提出状況
6	第3章欧米諸国と日本の国民国家形成		イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツの統一、明治政府の諸改革、日本のアジア外交と国境問題、自由民権運動と大日本帝国憲法	6	第3 考査 授業への取り組み 授業プリント等の提出状況
7	第4章帝国主義の時代		帝国主義の時代へ、朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争、日清戦争後の東アジア、日露戦争と東アジアの変動、日本の産業革命	8	
9					
10	第2編国際秩序の変化や大衆化と私たち		第一次世界大戦、ロシア革命とソ連の成立、米騒動とデモクラシー、ヴェルサイユ体制とワシントン体制、アジアの民族運動、第一次世界大戦後の欧米諸国、ひろがる社会運動と普通選挙の表現	12	第4 考査 授業への取り組み 授業プリント等の提出状況
11	第5章第一次世界大戦と大衆社会				
12	第6章経済危機と第二次世界大戦		世界恐慌と各国の対応、ファシズムの時代、満州事変と軍部の台頭、日中戦争と戦時体制、第二次世界大戦の勃発、第二次世界大戦の終結、国際連合の成立と冷戦、日本占領と日本国憲法、朝鮮戦争と日本	15 5	第5 考査 授業への取り組み 授業プリント等の提出状況
1					
2	第3編グローバル化と私たち 第7章冷戦と脱植民地化 第8章多極化する世界		植民地の独立、米ソ両陣営の動揺、日本の国際社会復帰と高度経済成長 石油危機と世界経済、緊張緩和から冷戦の終息へ、日本の経済大国化	5	
3	第9章グローバル化と現代世界		地域紛争と対立、国際秩序の変容	3	

計70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

授業プリント（ノート）等の提出は必要に応じて行います。

8 担当者からの一言

近世から現代の世界と日本の歴史を学習します。市民革命や産業革命、そして世界大戦、冷戦へと学習を進め、私たちが当たり前だと思っている権利や平等といった「人権」や、「民主主義」といった考え方は、どのようにして獲得してきたものなのかを理解しましょう。また、現在も世界各地で起きている戦争・紛争の原因も理解していきましょう。

教科(科目)	公民 (公共)	単位数	2単位	年次(系列)	2年次 (必履修)
使用教科書	実教出版『公共 新訂版 共につくる未来』				
副教材等	とうほう『テーマ別資料 公共』 実教出版『公共 新訂版 演習ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる力を養う。
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、発表する力を養う。
- (3) よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決する態度を養う。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、

- ①現代の社会を読み解くための基本用語や基本的事項について理解できるようになることを目指します。
- ②自分を取り巻く社会について関心を持ち、民主的・平和的に課題を解決していくために自分の考えや意見がもてるようになることを目指し、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生きる国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図る。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、発表したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	4の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業への取り組み ・授業プリントや課題の提出状況 などから評価します。	4の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業への取り組み ・授業プリントや課題の提出状況 などから評価します	4の観点を踏まえ、 ・授業への取り組み ・授業プリントや課題の提出状況 などから評価します。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	<倫理> 第1章社会を作る私たち	教科書	青年期の意義/自己形成の課題/職業生活と社会参加/伝統・文化と私たち	4	第1 考査 授業への取り組み 授業プリントや課題の提出状況
5	第2章人間としてよく生きる 第3章他者とともに生きる 第4章民主社会の倫理	副教材	古代ギリシアの人間観/科学と人間/自由の実現/社会を作る人間 人間と幸福/公正な社会をめざして 人間の尊厳と平等/自由・権利と責任・義務	5 2 3	
6	<政治> 第5章民主国家における基本原理		民主政治の成立/民主政治の基本原則/民主政治のしくみと課題/ 世界の主な政治制度	4	第2 考査 授業への取り組み 授業プリントや課題の提出状況
7	<現代の民主政治と日本国憲法> 第1章日本国憲法の基本的性格		日本国憲法の成立/日本国憲法の基本的性格/自由に生きる権利/ 平等に生きる権利/社会権と参政権・請求権/新しい人権/人権の広がり と公共の福祉/平和主義とわが国の安全/こころの防衛問題	10	
9	第2章日本の政治機構と政治参加		政治機構と国会/行政権と行政機能の拡大/公正な裁判の保障/ 地方自治と住民福祉/政党政治/選挙制度/世論と政治参加	7	第3 考査 授業への取り組み 授業プリントや課題の提出状況
10	<経済> 第3章現代の経済社会		経済主体と経済活動の意義/経済社会の変容/市場のしくみ/市場 の失敗/現代の企業/国民所得/経済成長と国民の福祉/金融の役割 /日本銀行の役割/財政の役割と租税/日本の財政の課題	10	
11					
12	第4章日本経済の特質と国民生活		戦後日本経済の成長と課題/転機に立つ日本経済/経済社会の変化 と中小企業/農業と食料問題/消費者問題 公害の防止と環境保全/ 労働問題と労働者の権利/こころの労働問題/社会保障の役割/ 社会保障制度の課題	10	第4 考査 授業への取り組み 授業プリントや課題の提出状況
1	<国際>				
2	第5章国際政治の動向と課題		国際社会と国際法/国際連合と国際協力/こころの国際政治/ 人種・民族問題/軍拡競争から軍縮へ/国際平和と日本の役割	6	学年末考査 授業への取り組み 授業プリントや課題の提出状況
3	第6章国際経済の動向と課題		貿易と国際収支/外国為替市場のしくみ/第二次世界大戦後の国際 経済/地域的経済統合の進展/国際経済のつながりと課題/発展途 上国の諸課題と日本の役割	5	
	<持続可能な社会づくりの主体となる私たち>		課題の設定/情報の収集と読み取り・分析/課題の探究/自分の考え の説明、論述	4	

計70時間(50分授業)

7 課題・提出物等

授業プリント(ノート)等の提出は必要に応じて随時おこないます。
課題レポートの作成を課す場合があります。

8 担当者からの一言

私達の身の回りの社会的な出来事はすべて関連しあっています。「自分」と「社会」の関係について理解するために、基本的事項から学んでいきましょう。

教科(科目)	地理歴史 (地理総合)	単位数	2単位	年次(系列)	3年次 (必履修)
使用教科書	第一学習社『高等学校地理総合 世界を学び、地域をつくる』 二宮書店『コンパクト地理総合地図』				
副教材等	第一学習社『最新地理図表 GEO』 第一学習社『学習事項の整理と作業 地理総合ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出す人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。

- (1) 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養う。
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚を深める。

3 指導の重点

学習事項の平板な暗記とならないよう、地図を用いて位置の把握や空間的特性理解を促す。
地図やグラフ作成等の課題を適宜行い、理解を深める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想することができる。また、考察、構想したことを効果的に説明し、それらをもとに議論することができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、小テスト、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	授業 時数	評価方法
4 ～ 5	第1編 1章 地図や地理情報システムと現代世界	1 球面上の世界と地図	目的地への行き方、地球上の位置、世界の時差 世界地図の見方・使い方、地図から読み取る情報、デジタル化された地図、地理情報システムの活用	9	・授業態度 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
5 ～ 7	第2編 国際理解と国際協力 1章 生活・文化の多様性と国際理解	2 国家の結びつきとグローバル化する社会 1 世界の気候区と暮らし	国家の領域と国境、日本の領域とさまざまな領土問題、国家をこえた結びつき、交通機関の発達と縮小する世界、情報・通信で一体化する世界、拡大する世界の貿易と物流、グローバル化と人の移動による結びつき 世界の生活・文化を写真でつかもう、人々の生活に彩りを与える気候	12	・授業態度 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
9 ～ 10	第2編 国際理解と国際協力 1章 生活・文化の多様性と国際理解 2章 地球的課題と国際協力	2 地形・文化と私たちの暮らし 1 持続可能な社会を目指して 2 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて	「衣」から見る世界、「食」から見る世界、 「住」から見る世界、暮らしを豊かにする産業、宗教と人々の暮らし、暮らしを楽しむための文化、多様性に富んだ世界の人々との共生 持続可能な開発目標 (SDGs)、地球的課題の物理的な側面 貧困問題、人口問題、食料問題、持続可能な水の利用、健康・福祉問題、教育・ジェンダー問題	20	・授業態度 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
11 ～ 12	第2編 国際理解と国際協力	3 自然と調和した豊かな社会に向けて 4 現役世代と将来世代のための地球 5 平和で公正な社会に向けて	技術革新と持続可能な産業化、限りある資源、エネルギー問題、都市・居住問題、地球温暖化問題、陸地の環境問題、海洋の環境問題、世界の民族と民族問題、世界のさまざまな紛争、さまざまな対立の解決に向けて、国際協力とパートナーシップ	15	・授業態度 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
1 ～ 2	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災 2章 生活圏の調査と地域の展望	1 人間と自然環境との共生 2 ハザードマップと防災 3 地域調査	地球規模で見る地形の姿と自然災害、人々の暮らしを取りまく自然環境、変動帯の自然と防災、湿潤地域の自然と防災、私たちができる災害への備え、地域調査の方法	14	・授業態度 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査

計70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業ノート、ワークブックの提出は必要に応じて随時おこなう。
- ・長期休業中に課題レポートの作成・提出も求めることがある。

8 担当者からの一言

知ろうとする好奇心、面倒を恐れず調べる積極性をもとう。統計処理などの必要上、数的・論理的思考の苦手な人は訓練(ちょっとした数式計算など)ができるようにしておくことが求められる。また、グラフ作成が円滑に出来ること、白地図作業においては正確さが求められる。授業では、社会情勢と照らし合わせて地理的事象を考えることも多いため、ニュースなどをよく見るようにしましょう。

教科(科目)	数学 (数学 I)	単位数	3 単位	年次(系列)	1 年次 (必履修)
使用教科書	数研出版 『改訂版 新編 数学 I』				
副教材等	数研出版 『改訂版 基本と演習テーマ 数学 I + A』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動をとおして、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できるようにする。
- (2) 命題の条件や結論に着目し、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、

- ② 基本的な計算力の習得を重視し、安易な計算ミスをなくすことを目指します。
- ② 問題文の内容を的確に理解し、解法を論理的に導き出せることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現してその特徴を式、グラフを相互に関連付けて考察する力、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養おうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・小テストの分析 ・提出物などの内容確認 などから、評価します。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・小テストの分析 ・提出物などの内容確認 などから、評価します。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中や小テストへの取り組みの観察 ・提出物などの内容確認 などから、評価します。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	式の計算	教科書・副教材 数と式	式の展開・因数分解	12	定期考査・小テストの分析 提出物などの内容の確認 授業や小テストへの取り組みの観察
5	実数		根号を含む式の計算	3	
	1次不等式		1次不等式の解法	5	
6	集合	第1考査 集合と命題	集合と要素	5	
	命題と条件		命題 条件	5	
	2次関数とグラフ	2次関数	2次関数のグラフ 平方完成	15	
7		第2考査			
	2次関数の値の変化		最大値・最小値	6	
8	2次方程式・不等式		2次方程式の解法 解の公式	18	
			2次不等式の解法	10	
9	三角比	第3考査			
10	三角形への応用	図形と計量	正弦定理 余弦定理	6	
11			三角形の面積	4	
			空間図形への応用	2	
12		第4考査			
	データの整理	データの分析	度数分布 ヒストグラム	3	
1	データの代表値		平均値 中央値 四分位数	3	
2	分散と標準偏差	第5考査	分散 標準偏差	4	
	データの相関		相関係数	2	
		課題学習		2	
3					

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ほぼ毎週、その週の最初の授業に小テストを行います。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

情報化の進展により、機器の進歩のスピードが加速しています。このような流れにおいて、数学的な思考が役立つときが必ずあります。数学の基礎となる「数学I」で学ぶことを確実に理解していきましょう。

教科(科目)	理科 (科学と人間生活)	単位数	2単位	年次(系列)	1年次 (必修)
使用教科書	第一学習社 『高等学校 科学と人間生活』				
副教材等	第一学習社 『ネオパルノート 科学と人間生活』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現に関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。</p>

3 指導の重点

<p>① 科学的に探究する力を養うため、適切なデータの取り扱いができるようにする。</p> <p>② 科学的に探究しようとする態度を養うために、日常生活で生徒が体験できる自然の事物・現象を意識づけさせる。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養おうとしている。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高めようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査・小テストの分析 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査・小テストの分析 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取組の観察 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	授業時数	評価方法
4	科学技術の発展 光や熱の科学	科学技術の発展 熱の性質とその利用	情報・交通手段・医療の発展 熱とは何か エネルギーの利用	6	定期考査・ 小テストの分析 提出物などの 内容の確認 取り組みの観察
5				8	
6					
7	生命の科学	微生物とその利用	生態系内の微生物 食品と微生物 医薬品と微生物	18	
9	物質の科学	材料とその利用	プラスチックの特徴 金属とその製錬 資源の再利用	8	
10	地球や宇宙の科学	太陽と地球	太陽系を構成する天体 太陽と人間生活 太陽と月の動き	20	
11					
12					
1	これからの科学と人 間生活		課題研究の進め方	10	
2					
3					

計70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- 定期考査：第2回考査～第5回考査
- 単元テスト
- 授業態度：出席状況、毎時間の授業の取り組み等

8 担当者からの一言

日常的な科学事象に関心を持ち、なぜ、どうしての感覚を持ってください。幅広い分野について取り扱います。単元ごとにしっかりと学習してください。

教科(科目)	理科 (化学基礎)	単位数	2単位	年次(系列)	1年次 (必履修)
使用教科書	数研出版 『新編 化学基礎』				
副教材等	数研出版 『新課程 新編 化学基礎準拠サポートノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>① 科学的に探究する力を養うため、適切なデータの取り扱いができるようにする。</p> <p>② 科学的に探究しようとする態度を養うために、日常生活で生徒が体験できる自然の事物・現象を意識づけさせる。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けようとしている。	理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養おうとしている。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペーパーテストの分析 ・ 式やグラフでの表現の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。 	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	授業時数	評価方法
4	物質の構成	教科書 副教材	・混合物と純物質	2	定期考査・ 小テストの分析 提出物などの内容 の確認 取り組みの観察
5	物質の構成粒子		・物質とその成分	2	
			・物質の三態と熱運動	2	
			・原子とその構造	2	
			・イオン	2	
			・元素の周期表	2	
6	粒子の結合		・イオン結合とイオンからなる物質	6	
			・分子と共有結合	2	
7			・分子の極性	6	
8			・共有結合の物質	2	
			・金属結合と金属	4	
9	物質と化学変		・原子量・分子量・式量	4	
10	化	・物質	2		
11		・溶液の濃度	6		
		・化学反応式と物質	2		
12		・酸、塩基	4		
1	酸と塩基の反応	・水の電離と水溶液の pH	2		
		・中和反応と塩	4		
		・中和滴定	4		
2		・酸化と還元	2		
3	酸化還元反応	・酸化剤と還元剤	4		
		・金属の酸化還元反応	2		
		・酸化還元反応の利用	2		

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- 定期考査：第1回考査～第5回考査
- 単元テスト
- 授業態度：出席状況、毎時間の授業の取り組み、提出物等

8 担当者からの一言

私たちの周りには様々な物質があり、多くの化学反応が起こっています。物質を理解し、私たちの暮らしを支える化学を学びましょう。物質の性質だけでなく、量的な関係も扱うため、分数や指数の計算は丁寧に行う必要があります。

教科(科目)	保健体育 (体育)	単位数	3単位	年次(系列)	1年次 (必修)
使用教科書	「現代高等保健体育 改訂版」 大修館書店				
副教材等	「現代高等保健体育ノート 改訂版」 大修館書店				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

3 指導の重点

学習目標を踏まえた上で、

- ・運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができる
- ・自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う
- ・公正に取り組む、互いに協力する、意欲を育てる

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・実技テスト ・チェックシート 等により、総合的に評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・実技テスト ・チェックシート 等により、総合的に評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・実技テスト ・チェックシート 等により、総合的に評価する。
内容のまとめりにごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりにごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	体づくり運動		○体づくり運動	10	1年間を通じて、 ・チェックシート ・実技テスト 等を総合的に判断して評価を行う
5	陸上競技 体育理論	短距離走・長距離 体育理論	(1)主体的に取り組むとともに、体力などの違いに配慮すること (2)運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続出来るよう工夫する	6 6	
6	球技(ゴール型)サッカー	サッカー	○陸上競技	7	
7	球技(ベースボール型) ソフトボール	ソフトボール	短距離走は、中間走の高いスピードを維持して走ることが出来るようにする ○体育理論	8	
9	球技(ベースボール型) ソフトボール	ソフトボール	スポーツの歴史・文化的特徴や現代のスポーツの特徴について理解できるようにする	7	
	球技(初型)バドミントン	バドミントン	オリンピックやパラリンピックについて理解できるようにする	8	
10	陸上競技(長距離)	長距離走	○球技	9	
11	球技(初型)バドミントン 器械運動(マット)	バドミントン マット運動	(1)勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めたゲームが展開出来るようにする	6 6	
12	球技(ゴール型)	バスケットボール	(2)フェアプレイを大切にすること、健康・安全を確保することが出来るようにする	7	
1	バスケットボール		○陸上競技	8	
2	球技(初型)バレーボール	バレーボール	長距離走ではペースの変化に対応するなどして走らせる	9	
3	球技(初型)バレーボール 球技(ゴール型) バスケットボール	バレーボール バスケットボール	○器械運動 回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を滑らかに行うこと、それらを構成して演技すること	8	

計 105 時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・チェックシートを用い、課題解決・指導改善に生かします。
- ・グループワークの課題は別途指示します。
- ・レポートの作成と発表は適宜となります。

8 担当者からの一言

年間を通じて補強運動を継続し、基礎体力の向上を目指します。また、各種目においては基本技術の習得や種目ごとのルールを理解を深めます。そして、生徒が互いに協力し主体的な試合の審判を公正に取り組む態度やグループワークの課題とチェックシートを元に評価します。

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	2単位	年次(系列)	2年次(必修)
使用教科書	「現代高等保健体育」 大修館書店				
副教材等	「現代高等保健体育ノート」 大修館書店				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

3 指導の重点

- 学習目標を踏まえた上で、
- ・運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができる
 - ・自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う
 - ・公正に取り組む、互いに協力する、意欲を育てる

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・実技テスト ・チェックシート 等により、総合的に評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・実技テスト ・チェックシート 等により、総合的に評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・実技テスト ・チェックシート 等により、総合的に評価する。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	体づくり運動	教科書・副教材	○体づくり運動	7 9 6	1年間を通じて、 チェックシート 実技テスト 等を総合的に判断して 評価を行う
5	陸上競技	短距離走・リレー	(1)主体的に取り組むとともに、体力などの違いに配慮すること		
6	体育理論	体育理論	(2)運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続出来るよう工夫する		
7	領域選択① 球技(ネット型)バドミントン	バドミントン	○陸上競技 短距離走は、中間走の高いスピードを維持して走ることが出来るようにする	12	
8	球技(ボール型)ソフトボール	ソフトボール	○体育理論 スポーツの歴史・文化的特徴や現代のスポーツの特徴について理解できるようにする	6	
9	陸上競技	長距離走	○球技 (1)勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めたゲームが展開出来るようにする	10	
10	領域選択② 球技(ゴール型)サッカー	サッカー	(2)フェアプレイを大切にすること、健康・安全を確保することが出来るようにする	10	
11	器械運動	マット運動	○陸上競技 長距離走ではペースの変化に対応するなどして走らせる	10	
12	領域選択③ 球技(ネット型)バレーボール	バレーボール			
1	球技(ボール型)バスケットボール	バスケットボール			
2					
3					

計 70 時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・チェックシートを用い、課題解決・指導改善に生かします。
- ・グループワークの課題は別途指示します。
- ・レポートの作成と発表は適宜となります。

8 担当者からの一言

2年次生の体育はより一層の体力の向上を図るとともに、自ら積極的に体力を向上させる意識を高めます。また、各種目においても自ら進んで練習方法など考え、課題解決できるようにしていきます。生徒が互いに協力し主体的な試合の審判を公正に取り組む態度やグループワークの課題とチェックシートを元に評価します。

教科(科目)	保健体育（体育）	単位数	2単位	年次(系列)	3年次（必履修）
使用教科書	「現代高等保健体育」 大修館書店				
副教材等	「現代高等保健体育ノート」 大修館書店				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

3 指導の重点

学習目標を踏まえた上で、

- ・運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができる
- ・自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う
- ・公正に取り組む、互いに協力する、意欲を育てる

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・実技テスト ・チェックシート 等により、総合的に評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・実技テスト ・チェックシート 等により、総合的に評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・実技テスト ・チェックシート 等により、総合的に評価する。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	体づくり運動	体づくり運動	○体づくり運動 (1)主体的に取り組むとともに、体力などの違いに配慮すること	7	1年間を通じて、 チェックシート 実技テスト 等を総合的に判断して 評価を行う
5	陸上競技	短距離走・リレー	(2)運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続出来るよう工夫する	9	
6	体育理論			6	
7	領域選択①				
8	球技(ネット型)テニス	テニス	○陸上競技	16	
9	球技(ゴール型)サッカー	サッカー	短距離走・リレーでは中間走の高いスピードを維持して走ることが出来るようになる		
	球技(ベースボール型)ソフトボール	ソフトボール			
10	陸上競技	長距離走	○体育理論	16	
	領域選択②		スポーツの歴史・文化的特徴や現代のスポーツの特徴について理解できるようにする	16	
11	球技(ネット型)バドミントン	バドミントン			
	球技(ゴール型)サッカー	サッカー			
	球技(ベースボール型)ソフトボール	ソフトボール			
12	領域選択③		○球技		
1	球技(ネット型)卓球	卓球	(1)勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めたゲームが展開出来るようになる		
	バレーボール	バレーボール	(2)フェアプレイを大切にすること、健康・安全を確保することが出来るようになる		
2	球技(ゴール型)バスケットボール	バスケットボール			

計 70 時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・チェックシートを用い、課題解決・指導改善に活かします。
- ・グループワークの課題は別途指示します。
- ・レポートの作成と発表は適宜となります。

8 担当者からの一言

3年次生の体育はより一層の体力の向上を図るとともに、自ら積極的に体力を向上させる意識を高めます。また、各種目においても自ら進んで練習方法など考え、実行、課題解決できるようにしていきます。生徒が互いに協力し主体的な試合の審判を公正に取り組む態度やグループワークの課題とチェックシートを元に評価します。

教科(科目)	保健体育 (保健)	単位数	1 単位	年次(系列)	1 年次 (必履修)
使用教科書	「現代高等保健体育 改訂版」 大修館書店				
副教材等	「現代高等保健体育ノート 改訂版」 大修館書店				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

3 指導の重点

学習目標を踏まえた上で、

- ・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに技能を身に付けるようにする。
- ・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- ・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・ペーパーテスト ・主体的に学習に取り組む態度等により、総合的に評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・ペーパーテスト ・主体的に学習に取り組む態度等により、総合的に評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・ペーパーテスト ・主体的に学習に取り組む態度等により、総合的に評価する。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	健康の考え方と成り立ち	教科書 副教材 (現代社会と健康)	健康についての多様な考え方、健康の成り立ちとその要因	1	1年間を通じて、 ・テスト ・レポート ・主体的に取り組む態度 などを基に考慮して評価する。
	私たちの健康のすがた		わが国における健康水準の向上、健康問題の変化	2	
5	生活習慣病の予防と回復		生活習慣病とその種類・予防から回復まで	1	
	がんの原因と予防		がんとその種類・がんの予防	1	
	がんの治療と回復		がんの治療と緩和ケア・がんとともに生きる社会づくり	2	
6	運動と健康		健康からみた運動の意義・健康により運動のしかた	1	
	食事と健康		健康的な食生活の意義・健康により食事のとり方	1	
	休養・睡眠と健康		健康からみた休養の意義・健康からみた睡眠の意義	2	
7	喫煙と健康		喫煙の影響・喫煙への対策	1	
	飲酒と健康		飲酒の影響・飲酒への対策	1	
	薬物乱用と健康		薬物乱用の影響・薬物乱用の要因と対策	2	
9	精神疾患の特徴		精神疾患の要因と種類・精神保健の今日的課題	1	
	精神疾患の予防		日常生活における精神疾患の予防・精神疾患の早期発見、早期治療	1	
	精神疾患からの回復		専門家による支援と治療・社会環境の整備	2	
10	現代の感染症		感染症とは・さまざまな感染症	1	
	感染症の予防		感染症予防の3原則・現代の感染症対策	1	
	性感染症・エイズとその予防		性感染症、エイズとは・性感染症、エイズの予防	2	
11	健康に関する意思決定・行動選択		意思決定、行動選択とそれに影響を与える要因・適切な意思決定、行動選択を実現する工夫	1	
	健康に関する環境づくり		健康を保持増進するための環境・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくり	3	
12	事故の現状と発生要因	(安全な社会生活)	事故とその被害・事故の発生に関連する要因	1	
	安全な社会の形成		自他の安全を確保する行動・安全を確保する社会の取り組み	1	
1	交通における安全		交通事故防止のための取り組み・交通事故と運転者の責任	2	
2	応急手当の意義とその基本		応急手当の意義・応急手当の手順	1	
	心肺蘇生法		心肺蘇生法の実習	1	
3	日常的な応急手当		けがに応じた応急手当・熱中症の応急手当の実習	2	技能テスト

計 35 時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・チェックシートを用い、課題解決・指導改善に生かします。
- ・グループワークの課題は別途指示します。
- ・学習ノート

8 担当者からの一言

自分自身の健康について考え、日頃の生活に何が必要か理解するようにします。また、健康に生活するための知識を深め、生涯を通じる健康について理解を高めるようにします。ICT活用し生徒が主体的に学習に取り組む態度等により総合的に評価します。

教科(科目)	保健体育 (保健)	単位数	1 単位	年次(系列)	2年次 (必履修)
使用教科書	「現代高等保健体育」 大修館書店				
副教材等	「現代高等保健体育ノート」 大修館書店				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え、学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>学習目標を踏まえた上で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに技能を身に付けるようにする。 ・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 ・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価規準と評価方法

<p>評価方法</p>	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	<p>知識・技能</p>	<p>思考・判断・表現</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・ペーパーテスト ・主体的に学習に取り組む態度 <p>等により、総合的に評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・ペーパーテスト ・主体的に学習に取り組む態度 <p>等により、総合的に評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・ペーパーテスト ・主体的に学習に取り組む態度 <p>等により、総合的に評価する。</p>
<p>内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。</p>			

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法	
4	(生涯を通じる健康) ライフステージと健康 思春期と健康	教科書 副教材	ライフステージと死亡や病気、健康課題と支援	2	1年間を通じて、 ・テスト ・レポート ・主体的に取り組む態度などを基に 考慮して評価する。	
5	性意識と性行動の選択 妊娠・出産と健康		思春期の体と健康、心と健康 性意識とその尊重、性に関する情報と性行動 受精・妊娠・出産、母子保健サービスの活用	2 2		
6	避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康		家族計画の意義と避妊法、人工妊娠中絶 結婚生活の基盤となる心身の発達、家族の健康	2 2		
7	中高年期と健康 働くことと健康		加齢による変化と健康、健康を支える取り組み 働くことと健康問題、働き方と健康問題の変化	1 1		
8	労働災害と健康 健康的な職業生活 (健康を支える環境づくり)		労働災害とその要因、労働災害の防止 職場における取り組み、仕事と生活の調和	1 1		
9	大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康		大気汚染の原因と健康影響、地球規模の問題 水質・土壌汚染と健康影響、複合的な環境汚染	2 2		
10	環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備		環境汚染の防止と対策、産業廃棄物の処理と健康 ごみ処理の現状、安全で良質な水の確保	2 2		
11	食品の安全性 食品衛生にかかわる活動		食品の安全性と健康、今日的課題 食品の安全性の確保、私たちの役割	2 2		
12	保健サービスとその活用 医療サービスとその活用		保健行政の役割、保健サービスの活用 医療の供給と医療保険、医療サービスの活用	2 2		
1	医薬品の制度とその活用 さまざまな保健活動や社会的対策		医薬品の種類と使用法、副作用とさまざまな対策 保健活動と社会的対策、住民の理解	1 1		
2	健康に関する環境作りと社会参加		健康と環境づくり、社会参加と情報の活用	1		
3						

計 35 時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・チェックシートを用い、課題解決・指導改善に生かします。
- ・グループワークの課題は別途指示します。
- ・学習ノート

8 担当者からの一言

自らの健康を高める意識はもちろん、現代社会の中で生活する上で健康のために何が必要なかを自覚し、自ら考え判断できる知識を身に付けます。ICTを活用し生徒が主体的に学習に取り組む態度等により総合的に評価します。

教科(科目)	芸術(音楽 I)	単位数	2 単位	年次(系列)	2 年次
使用教科書	教育芸術社『MOUSA 1』				
副教材等	リコーダー、ミュージックノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構想や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動の取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

3 指導の重点

世界の幅広い音楽を通して、音楽を愛好する心情を育むとともに感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構想や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動の取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養おうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ ・定期考査(技能) ・授業への取り組み ・授業プリントや課題の提出状況 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期考査 ・授業への取り組み ・授業プリントや課題の提出状況 ・振り返りシートの記述分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期考査 ・授業への取り組み ・授業プリントや課題の提出状況 ・振り返りシートの記述分析 などから、評価します。
内容のまとめりにごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりにごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	独唱曲に親しみ、そのよさを味わおう	教科書 副教材	曲の構成、曲の背景の理解 発声等の表現の工夫 曲に応じた表現の工夫 演奏者の発声や音楽の発音	1 2	1年間を通じて ・授業態度 ・テスト ・レポート 等をもとに評価する
5	アンサンブルの響きを味わおう -合唱曲を中心に-		アンサンブルのよさ 協調し合って音楽を作り上げる 合唱のよさ、各パートの特徴と役割 合唱の形態、響きの違い、曲の雰囲気	1 2	
6 7	クラシック音楽を味わおう		さまざまな形態の音楽 クラシック音楽のよさ 曲の構成や要素 曲の背景や様式 アーティキュレーション等の演奏法	1 2	
8 9 10	アンサンブルの響きを味わおう		楽器の種類や特徴、効果的な表現 アンサンブルの調和 アンサンブルの特徴	1 2	
11 12	作曲をしてその曲を表現しよう		作曲に必要な要素・手法 曲の構成・要素・雰囲気	1 0	
1 2 3	世界の諸民族の音楽や日本の伝統音楽に親しもう		日本や諸外国の音楽 歌詞の理解、曲の特徴・表現 音楽のよさと美しさ	1 2	

計70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業で使用したプリントを提出。
- ・単元ごとに振り返りシートを記入し、提出。
- ・演奏課題の発表。

8 担当者からの一言

身近な音楽に触れ、音楽の楽しさを知り、豊かな心を育みましょう。また、個人からグループなど様々な形態での学習活動を行います。実技の練習には積極的に取り組みましょう。

教科(科目)	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	2年次
使用教科書	日本文教出版「高校美術1」				
副教材等	イラストレーションボード、デザインセット、鉛筆、彫刻刀 ほか				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 指導の重点

制作を通して自己を表現することの楽しさを知る。また、絵画、彫刻に対する理解、関心を高め、生涯にわたって芸術作品に触れる喜びを感じていくための美的感性を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養おうとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ ・作品ファイル ・製作過程 ・提出作品 ・「学習のまとめ」の内容 などから評価します。	以上の観点を踏まえ ・提出作品 ・活動の様子 ・提出作品 ・「学習のまとめ」の内容 などから評価します。	以上の観点を踏まえ ・活動の様子 ・提出作品 ・作品ファイル ・「学習記録」による学習過程 などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

5 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法	
4	美術に親しみ、その良さを味わう(鑑賞)	教科書・作品	「美術I」の学習で学ぶこと 授業を受ける時の注意、準備するもの。	2	1年間を通じて ・出席状況 ・作品提出 ・授業への取り組み等を元に評価する。	
5	絵画・彫刻	イラストレーション	身近な者を描く ・主題の生成 ・表現形式の特性	18		
6		デッサン(静物)	・材料や用具の特性 ・表現方法	14		
7	デザイン	色彩構成	ポスター(アクリル絵画) ・主題の生成 ・表現の構想 ・デザインの基礎 ・色彩学の基礎 ・材料や用具の特性 ・レタリング	14		
8						
9						
10	彫刻	木彫	人形作成 ・主題の構成 ・表現形式の特性 ・材料や用具の特性 ・表現方法 ・制作方法 ・材料や用具の活用	14		
11						
12	映像メディア表現	写真集	・視覚的要素(色光、視点、動き) ・映像メディア機器の特性 ・表現方法や編集の工夫	8		
1						
2						
3						

計70時間(50分授業)

6 課題・提出物等

課題に応じた作品を提出します。

7 担当者からの一言

基本を忠実に。そこからの各自の工夫、オリジナリティに発展するように心がけています。

教科(科目)	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2単位	年次(系列)	2年次
使用教科書	教育出版『書道Ⅰ』				
副教材等	教育図書『ペン習字の基礎』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

書道の幅広い活動をとおして、書に関する見方・考え方をはたらかせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。（「知識及び技能」の習得）
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わいとらえたりすることができるようにする。（「思考力、判断力、表現力等」の育成）
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をとおして心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。（「学びに向かう力、人間性等」の涵養）

3 指導の重点

書を愛好し、書写能力を高め、意欲的に表現や鑑賞の活動を行い、その良さや美しさを味わう。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わいとらえたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
	以上の観点を踏まえ ・作品ファイル ・「学習記録」による学習過程 ・提出作品 ・「学習のまとめ」の内容 などから評価します。	以上の観点を踏まえ ・提出作品 ・活動の様子 ・作品ファイル ・「学習のまとめ」の内容 などから評価します。	以上の観点を踏まえ ・活動の様子 ・提出作品 ・作品ファイル ・「学習記録」による学習過程 などから評価します。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	書之美を求めて 書の世界へようこそ	教科書 副教材	書道の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握する。用具・用材について理解し、姿勢や執筆法・用筆法について知り、書道の学習における基本的な事項を理解する。	6	1年間を通じて ・作品提出 ・授業態度 等を元に評価する
5	一 楷書の学習		さまざまな楷書古典を鑑賞し、そのよさや美しさ、書風を直感的にとらえ、作品の価値や根拠について考える。	8	
6					
7	二 行書の学習		さまざまな行書古典を鑑賞し、書風を直感的にとらえうえて、行書の特徴について理解する。	8	
9	三 篆書の学習		身のまわりに見られるさまざまな書にふれること をとおして、楷書や行書以外の書体についても目を向けられるようにする。	8	
10	四 篆刻・刻字の学習 五 隸書の学習 六 草書の学習		篆書、隸書、草書の学習については、生徒の特性 等を考慮して学習する。また、篆刻・刻字については、生徒の興味や関心をふまえ、可能な限り扱う。	8 4 2	
11	二 仮名の書の学習 料紙の美		仮名の書の制作（散らし書き）をとおして、意図に基づく構想と表現の工夫について学習する。	6	
12	料紙を作ってみよう		仮名の書に用いられてきた美しい加工を施した料紙の美について理解を深める。	6	
1	三 漢字仮名交じりの書の学習 1 言葉を表現する		これまでで学習した漢字および仮名の古典の学習 をもとに、その表現を応用した漢字仮名交じりの書の制作を行う。	4	
2	2 感動や思いを表現しよう		自らの感動や思い・感概に応じて詩文を選定する。また、作品の表現形式を決めた上で、詩文を選定する場合もある。意図に基づいて構想し、用具・用材、全体の構成など工夫し、漢字と仮名の調和の方法を考えて表現していく。	4	
	3 漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞			4	
3	漢字仮名交じり文の成立とその書の変遷		漢字仮名交じり文の成立とその書の変遷について理解を深める。	2	

計 70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- 1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。
- 2 提出前の途中経過（試書・中間まとめ・添削を受けたもの等）を記録としてファイルします。
- 3 単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い、自己評価します。
- 4 課題に応じて作品を提出します。作品制作は数時間かけて完成させます。

8 担当者からの一言

- ・「何ができるようになったか」を大切にしたいと思います。1時間の中での進歩、単元をとおしての進歩、学期をとおしての進歩、そして、1年間の学習をとおしての進歩が感じられるような学習への取り組みをして下さい。
- ・一人ひとりの個性を生かし、これを伸ばしていくことを学習の第一目標としています。練習する古典や題材とする語句などについて、自分を最高に生かせる選択をしていきたいものです。
- ・「書道I」の学習をとおして、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになってほしいと思います。

教科(科目)	外国語 (英語コミュニケーション I)	単位数	3単位	学年(系列)	1学年
使用教科書	Power On English Communication I Revised (東京書籍)				
副教材等	Power On English Communication I Revised WORKBOOK(東京書籍) Active Listening 1(第一学習社) クラウンチャンクで英単語Basic(三省堂) クラウンチャンクで英単語Basic トリルノート1&2(三省堂)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現に関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

3 指導の重点

- ①外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる。
- ②コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。
- ③外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとすることができる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話して、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 評価規準と評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・ワークシート、ワークブック、提出物の内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストやパフォーマンステストの分析 ・授業中の取組、発表の観察 ・ワークシート、ワークブック、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述内容の分析 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取組、発表の観察 ・ワークシート、ワークブック、提出物などの内容や提出状況の確認 ・振り返りシートの記述内容の分析 などから評価します。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 ~ 9	Pre-Lesson 1~5		「語順」の違い、自動詞と他動詞、説明を加える言葉など	2	
	Lesson 1	Japan's New Tourism	・動詞の現在形・過去形、 進行形、助動詞+動詞の原形	13	ワークシート(記述の点検・確認) パフォーマンステストの分析 ペーパーテストの分析、提出物の確認
	Lesson 2	Light from Creatures	・受け身、現在完了形、現在完了進行形	13	ワークシート(記述の点検・確認) パフォーマンステストの分析
	Lesson 4 定期考査	Miniature Life	・後置修飾の現在分詞、後置修飾の過去分詞、比較級・最上級	12	ワークシート(記述の点検・確認) パフォーマンステストの分析 ペーパーテストの分析 提出物の確認
10 ~ 3	Lesson 5	Banana Paper	・関係代名詞(主格)、関係代名詞(目的格)、 S+seem+to 不定詞	13	ワークシート(記述の点検・確認) パフォーマンステストの分析
	Lesson 6	Patterns in Human Behavior	・It+be 動詞+形容詞+that 節, S+V [be 動詞以外+C], S+V+O+C [形容詞]	13	ワークシート(記述の点検・確認) パフォーマンステスト ペーパーテストの分析 提出物の確認
	Lesson 7	No Plastic or No Future	・関係副詞 where, 関係副詞 when, 関係代名詞 what	13	ワークシート(記述の点検・確認) パフォーマンステストの分析
	Lesson 9 定期考査	Is E-sports a Real Sport?	・S+V [知覚] +O+ [現在分詞, 原形不定詞], S +V [使役] +O+C [原形不定詞], S+V+O ₁ + O ₂ [if などの節]	13	ワークシート(記述の点検・確認) パフォーマンステストの分析 ペーパーテストの分析 提出物の確認
	Lesson 10 定期考査	Never Too Late to Learn and Relearn	・wish+仮定法過去の節, 仮定法過去の as if 節, 仮定法過去の if 節	13	ワークシート(記述の点検・確認) パフォーマンステストの分析 ペーパーテストの分析 提出物の確認

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・『授業用ワークシート』を単元ごとに提出してもらいます。
- ・『ワークブック』『クラウンチャングで英語 Basic ドリルノート』を考査ごとに提出してもらいます。
- ・毎週、単語テストを行います。 ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

この科目は皆さんが中学校で学習してきた英語を元に、英語を読んだり聞いたり、または英語で考えたり、書いたり、発表したりするものです。グローバルスタンダードである英語を運用する力をこの1年間でしっかり身につけましょう。授業に備えて必ず予習をしてきてください。

教科(科目)	家庭 (家庭基礎)	単位数	2単位	年次(系列)	1年次 (必修)
使用教科書	教育図書『家庭基礎 つながる暮らし 共に作る未来 新訂版』				
副教材等	教育図書『LIFE おとなガイド デジタル+』、『家庭基礎 つながる暮らし 共に作る未来 新訂版 学習ノート』 実習費 年間2,700円程度 (被服・調理実習費など)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めめるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

生活の営みに関わる見方・考え方をはたらかせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域を創造する資質・能力を育成する。

3 指導の重点

- ①基礎的・基本的な知識と技術を具体的・実践的に学習します。授業を大切にし、要点をプリントにまとめ、学んだ知識を実験・実習の体験を通して、学習の楽しさを体感することを目指します。
- ②学習した内容を生活の場に生かせるようにします。授業で学んだことを各自の家庭生活に取り入れ、生活を科学的・合理的にするとともに、豊かで潤いのある生活ができることを目指します。また、家庭を取り巻く環境にも目を向けられるように指導します。
- ③生活に対して課題意識を持ち、問題解決能力を身に付け、生活に役立てられることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

5 評価規準と評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・実習課題の分析 ・ホームプロジェクトの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業中の取組、発表の観察 ・学習ノートやプリント、提出物などの内容の確認、振り返りシートの記述の分析 ・ホームプロジェクトの取組、発表の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組、発表の観察 ・学習ノートやプリント、提出物などの内容の確認、振り返りシートの記述の分析 ・ホームプロジェクトの取組、発表の観察 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	生活設計	教科書 副教材	・自分の将来を見通そう	1	学習ノート (記述の点検・確認)
	青年期と家族		・これからの人生に向かって ・家族・家庭とは何だろう ・これからの家庭生活と社会	7	学習ノート (記述の点検・確認) 提出物の確認
5	定期考査	エプロン 製作	・衣服のはたらき ・衣服ができるまで ・衣服の計画と管理 ・これからの衣生活 ・「住まい」とは ・安全な住まい ・快適な住まい ・住まいの課題と未来の暮らし	10	学習ノート (記述の点検・確認)
6	衣生活			作品 (できばえの分析)	
	住生活			5	学習ノート (記述の点検・確認)
	定期考査				
7	ホームプロジェクトと学校		・生活の課題を見つけ、その改善方法を考え、実践する。 ・実践したことをまとめ、発表する。 ・子どもの成長を見つめる ・子どもの生活と保育 ・これからの子育て環境	4	提出物の確認 発表の様子 (行動の確認)
8	家庭クラブ活動				
9	保育			8	学習ノート (記述の点検・確認)
	定期考査				
10	高齢期 共生社会	調理実習	・高齢期ってどういう時期 ・高齢化する日本を生きる ・共生とは ・ノーマライゼーションとは ・家計とお金の将来を考えよう ・何をどうやって買う ・かしこい消費者になろう ・環境問題を考える ・私たちにできること	8	学習ノート (記述の点検・確認)
11	経済計画 消費生活 環境			12	学習ノート (記述の点検・確認)
	定期考査				
12	食生活			15	学習ノート (記述の点検・確認)
1				実習の様子 (行動の確認)	
2	定期考査				
3					

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学習ノートを定期考査ごとに提出。 ・調理実習等の実習記録を記入し、提出。 ・ホームプロジェクトを提出。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業で使用したプリントを提出。 ・被服製作実習の作品と自己評価表を提出。 |
|--|--|

8 担当者からの一言

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得して、家庭生活の充実向上を図りましょう。

教科(科目)	情報 (情報 I)	単位数	2 単位	年次(系列)	1 年次 (必修)
使用教科書	改訂版「高等学校情報 I」数研出版				
副教材等	改訂版「高等学校情報 I サポートノート」数研出版				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- ・効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深める。
- ・様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- ・情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	定期考査および実技試験 (情報リテラシー、情報モラル、情報セキュリティ、Word、Excel、Powerpoint、プログラミングなど)	定期考査および実技試験 (情報リテラシー、情報モラル、情報セキュリティ、Word、Excel、Powerpoint、プログラミングなど)	学習への取り組み (授業態度、発表や討論の様子、実習への取り組み状況など) 課題、提出物の確認
内容のまとめりにごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりにごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	情報社会の問題解決 ・情報とメディア	教科書 サポートノート	情報の特徴の理解と問題解決	6	サポートノート 課題
5	・情報社会における法とセキュリティ			6	定期考査①
6	・情報技術が社会に及ぼす影響			6	
7	コミュニケーションと情報デザイン ・情報のデジタル表現	教科書 サポートノート	デジタル化の表現方法と コミュニケーション手段の活用	6	サポートノート 課題
9	・コミュニケーション手段の発展と特徴			6	定期考査②
10	・情報デザイン			6	
11	コンピュータとプログラミング ・コンピュータのしくみ	教科書 サポートノート	コンピュータの仕組みの理解と プログラミング	6	サポートノート 課題
12	・プログラミング			6	定期考査③
12	・モデル化とシミュレーション			6	
1	情報通信ネットワークとデータの活用 ・ネットワークのしくみ	教科書 サポートノート	・情報通信の方法と仕組みの理解 ・データベースの活用	6	サポートノート 課題 定期考査④
2	・データベース			5	
3	・データの分析			5	サポートノート 課題
3				5	定期考査⑤

計70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

サポートノートの提出および実習課題

8 担当者からの一言

急速に変化する情報社会の実態に即した授業を行います。基本的な知識・技能を学び、正確な情報収集・発信、情報を活用する能力を養うことで、氾濫する情報に振り回されない主体性を身につけてください。パソコンや情報機器の取り扱いに加えて、プレゼンテーションやユニバーサルデザイン、プログラミングなどの学習もします。

教科(科目)	産業社会と人間	単位数	2単位	年次(系列)	1年次(必履修)
使用教科書	『産業社会と人間 よりよき高校生活のために 四訂版』 学事出版				
副教材等	令和8年度版 キャリアデザインノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までに次の資質・能力を育成する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と社会で必要とされる価値の実現を関連付けて前へ進もうとする人 ・自分の考えを表明することができ、他者との関係の中で、他者への理解と他者との協働ができる人 ・自分の専門分野を深めつつ、他の分野にも興味関心を持ち、連携して活動することに新たな価値と喜びを見出そうとする人
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」により、2年次以降の教科・科目を生徒が主体的に選択できるよう、体験活動、訪問見学、講師招へい、調べ学習などを行い「どう生きるのか」について体験的学びを行う。 ・普通教科から専門教科にわたり多くの科目を開講し、多様な生徒一人一人に個別最適な学びを提供する。学びに加え学び方を身に付けさせる。 ・「総合的な探究の時間」や「課題研究」では、課題を設定し、課題解決に向けて納得解や最適解を求めるために試行錯誤を含んだ探究活動を行い、主体的に課題解決しようとする能力を育み、協働する態度を養う。 ・選択した系列を超えて他系列と連携すること、教育活動を社会に開き学校外の関係機関と連携することを推進し、教科・科目にとどまらないクリエイティブな学びを実現する。

2 学習目標

自己の適性・興味・関心を知り、上級学校見学や企業見学、就業体験(インターンシップ)などキャリア教育に関する諸活動への準備を通して、社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成を図るとともに、自己の将来の生き方や進路について考察し、履修計画を作成することにより将来設計を前向きに考えようとする態度と方策を学び、社会人として豊かな生活を送る方策を学ぶ。

3 指導の重点

総合学科において、各自が自己の進路を考え、何を学ぶべきかを探り出し、自己のためのカリキュラムを作成するための学習をする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>産業社会の構造や地域産業、企業などについて基本的な知識を身に付け、それらを自らの進路選択に向けて積極的に活用する意義を理解している。</p> <p>企業見学や就業体験、上級学校見学などで得た情報について、目的に応じて情報通信技術を適切に活用している。</p>	<p>自らの興味や関心、進路希望を基に、将来の生活設計について思考を深め、目的に応じて構成や展開を工夫して表現することができる。</p>	<p>産業社会に関心をもち、企業や上級学校に関する情報を積極的に収集し、自らの進路実現に向けた科目選択に主体的に取り組もうとしている。</p>

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・ペーパーテスト ・主体的に取り組む態度 ・ワークノートの提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・ペーパーテスト ・主体的に取り組む態度 ・ワークノートの提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・ペーパーテスト ・主体的に取り組む態度 ・ワークノートの提出
内容のまとめごとに、総合的に各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。			

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	自己を知る	オリエンテーション 履修計画ガイダンス	・性格、適性を知る ・適性職業を考える ・進路を考える	8	年間を通じて、 ・レポートの作成と発表 ・グループでの話し合い ・ペーパーテスト ・主体的に取り組む態度 ・ワークノートの提出等を基に評価する
5	職業を知る①	意識啓発講演会	・進学と職業を考える ・学習習慣形成支援講演会	8	
6	履修計画		・選択ガイダンス、科目説明 ・系列ガイダンス ・履修計画のための系列別模擬授業見学 ・履修計画の作成	10	
7	就業体験	ビジネスマナー講座	・就業体験準備	2	
8	地域を知る		・地域調査オリエンテーション	14	
9	職業を知る②	卒業生講話 第3 考査 職業別進路ガイダンス	・上級学校見学・企業訪問 ・地域の事業所の調査 ・地域調査発表会	14	
10		小論文指導			
11					
12	ライフプラン		・新潟県の産業の発展と社会の変化を知る ・職業生活と法律	12	
1	まとめ	租税教室		2	
2		ライフプラン作成	・ライフプランを考える	8	
3		第5 考査	・自己評価や感想文で来年度に向けて振り返る	6	
		「産業社会と人間」振り返り			

計70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・レポート (自分史, 企業見学, 上級学校見学, 就業体験準備, ライフプラン 等)
- ・履修計画票
- ・プレゼンテーション (地域調査)

8 担当者からの一言

この科目の学習を通して、各自の進路希望を考えて2年次と3年次の履修計画を作成します。1つ1つの学習内容に積極的に取り組み、情報を整理して理解することにより、自分にとってより良い将来設計ができるよう心がけてください。